自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をそれぞれのユニット内にかかげている。地域密着型サービスとして昨年に比べ、少しずつではあるが、地域の方との交流も持てている。おんぼら～と祭りでは地域の方参加もあった。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あいさつなど、出来ることから実践している。町内会の回覧板を入居者の方と一緒に届けたり、地域のゴミ当番に参加してり工夫している。もっと地域の方々と交流できないかと模索中である。今年は大雪であったため、地域の方々と協力して助け合えた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おんぼら～と祭りの開催を重ねて、地域の一員となりつつある。また、日頃の外出の場面からも、認知症の理解を深める発信ができていると思う。昨年より、おんぼら～と通信（あんやとね通信）を地域に向けて発行し、少しずつ馴染みの関係が築けはじめている。職員の子供が地域の学童保育からの帰りに寄って交流を持ったり、地域の子供とも繋がりが持て始めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、行っているが、そこで出た意見はなるべく、サービス向上につなげている。案内も「おんぼら～と　地域・ご家族とつながる会」としており、工夫をはじめている。地域ボランティアの方の参加もあり、少しずつ改善できている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課・長寿福祉課・介護保険課などと、連絡を取り合い必要な時は出向き、相談、報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、何が身体拘束に当たるか、1年に一回は学習するようにしている。切迫性、非代替性・一時性の要件を満たしているか、複数の職員で確認ししている。体の所在だけでなく、心の所在を確認するケアを目標として、日中の施錠は行っておらず、基本的に身体拘束をしないケアを実践している。毎月、ケアカンファレンス・リスク委員会で振り返り・改善を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろん、心理的・経済的、性的、放棄、放任も虐待にあたると学習しているが、もっと定期的に振り返りの学習をする必要があるように思う。現場で見過ごされがちな言葉による心理的虐待が、気付かぬうちに行われていないか、さらにチーム全体で気をつけていく必要がある。毎月、ケアカンファレンス・リスク委員会で振り返り・改善を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解が全体に低い。学習の機会が必要。権利擁護・後見人制度を利用している入居者はいるが、権利擁護、成年後見制度という言葉は知っているという程度の様に思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は、重要事項説明の時間を作り、質問に答えながら、施設長がおこなっており、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査で、家族の意見要望を職員全体に伝え、運営推進会議・家族会などでも事実を伝えて、運営に反映させている。職員が忙しそうで声かけしづらいなどの意見があったため、忙しそうに振る舞わない、安心感のあるご家族への対応など心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、聞く姿勢を持つように努力はしている。職員の意見交換の場として、ユニット内ではケアカンファレンスの跡に、職員全体では、職員全体会議の時に意見・提案を聞き、反映が必要なものは、すぐに反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は把握に努めていると思う。労働時間に関しては、休憩時間の確保がまだ、出来ておらず、職員個々の疲労が蓄積しやすい環境が改善されていない。向上心を持って働けるように、研修の希望があれば、予算から研修費を出すなど、整備に努めている。職場での職員の不満・意見・要望は話しやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が多いが、全国大会に参加・発表したりしており、機会の確保に努めている。法人外の研修の機会を持つように工夫・努力してきた。個別の面談が年に2回目標となっているが、出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が実習にくることは多いが、こちらから訪問するなどの機会は少ない。ネットワークづくりは管理者が主におこなっているが、職員間の交流がもっと必要と思われる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のケアの中で入居者の目線・立場で考え傾聴したり、また情報提供書も参考にしながら接したりして関係づくりを行ない、ご本人が安心して過ごせるような支援ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から気軽に話して頂けるように、こちらからお声かけを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めにアセスメントを行ない、プランを立てて実践しているが、状況に応じて臨機応変な対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にしながら、ご本人ができることは積極的にして頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは水入らずの時間を過ごして頂き、ご本人と家族の絆を大切にし、ご本人を共に支える関係を築いている。また、月に一度お便りを発行し、ご本人の様子をご家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援を行ない、馴染みの場所や知人との繋がりを大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが安心して過ごせるよう配慮している。万が一孤立しそうな時には話しかけたり、お互いが関わり合えるような席に配置したり、職員が間に入って話すなど工夫している。リビングに水槽を設置するなど、皆さんが集いやすい空間を提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルの方が最期を迎えられた際には、必要に応じてこれまでの関わりを継続し、お便りをお送りして関係性を保った。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度のカンファレンスにて、ご本人の希望や意見を聞いて、ご本人の立場に立ってケアプランに取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や家族の話しを参考にし、ご本人の話しも聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で連携を取りながら把握に努め、気になることは意見を出し合っている。またそれらを記録に残し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がアセスメントし、カンファレンスで協議したり、医療や家族等とも連携して現状を把握して、それに即した計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別に記入しており、特に小さな変化なども気づき欄を活用したり、ダイヤリーのトピックス欄も活用して情報を共有し、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに応じて検討し、支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に偏りはあるものの、買物や外食、その他の外出などを支援し、地域の行事にも参加して頂くなどしているが、地域資源の充分な把握はできていないように思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に外来受診・往診を受けている。また体調不良時など必要な時には追加での受診や往診も受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護を利用しており、個別の状況を伝え、気になる点は積極的に相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに言って情報収集したり、電話での連絡や意見交換を行なったり、病院でのカンファレンスに参加したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	3ヶ月に1回のアセスメントでセンター方式のCシートにて、ターミナル期についてのご本人・ご家族の意向は確認している。ターミナル期には地域の訪問看護・訪問医療を依頼し、連携をとっている。多職種連携をとり、チームで統一したケアができるように支援している。医師・看護師だけでなく、この2年はセラピスト（st）に連携で、最期までその人らしく味わう支援にも力を入れてきた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体制の整備やマニュアルはあるが、迅速に対応できるかは、不安がある。上記の内容も含め、定期的な訓練と意識付けが課題である。布担架や吸引機を各ユニットに設置し、緊急時の対応に努めている。今年度は2名が救急救命の学習に行き、全職員に伝達学習している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	体制の整備やマニュアルはあるが、迅速に対応できるかは、不安がある。上記の内容も含め、定期的な訓練と意識付けが課題である。布担架や吸引機を各ユニットに設置し、緊急時の対応に努めている。今年度は2名が救急救命の学習に行き、全職員に伝達学習している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関はあるが、福祉施設とのバックアップ、支援体制は弱い。少しずつ、法人内の特別養護老人ホームとの連携は取れ始めている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間ひとり体制、3ユニット協力体制はあるが、実際は難しく、施設長、ユニットリーダーが対応している。現在、宿直者の検討を行っている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は年に2回できているが、他の災害時の訓練はできておらず、職員全体では身についていない。地域との協力体制もまだ、弱いと思う。寝たきりの方の避難方法の検討、練習も今後の課題である。地震・水害等の自然災害に対しての明確なマニュアル整備が途中である。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	緊急時の連絡網は掲示してあり、体制的には整備されているが、機能できるように、日頃からの意識付けはまだまだ、弱い。火災などのピンポイントの災害は救助が、すぐに来れるが、大きな災害での安全確保は難しいと思われる。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった言葉を選んでコミュニケーションを図るよう心がけている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体にならないよう気をつけており、ご本人が決定できるようにしている。自己決定が困難な入居者の場合には状況や表情などから忖度し対応している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まず、意思表示できる方には、ご本人の気持ちを確認してから、決定している。意思表示が出来ない方に関しては、その日の体調や表情から判断させて頂いている。最近は再度、その人の役割や認知症があっても「人の役に立ちたい」思いを大切にしていくケアを見直している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時など、希望を伺い対応している。また共有の乳液や整髪料などを準備し、ご自身でもできるようにしている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める段階で希望を伺ったり、買物に一緒に出かけ好みの物を選んで頂くこともある。また下ごしらえや味見をして頂いたりしている。しかし、認知症状の進行により、一緒に行なうことが困難になってきている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	苦手な献立の場合は代替えの物を準備したり、食事量が少ない方には補食品を提供したりし、工夫して支援している。また月に一度、管理栄養士に来ていただきアドバイスを受けている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを実施してはいるが、毎食後はできていない。週に1回、ミルトン消毒で口腔用品を清潔に保っている。当ユニットは5名の方が歯科と連携し、口腔ケアを行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた排泄ケアを実施してはいるが、タイミングが合わないなど不充分なこともある。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し、便秘予防に努めている。1年前より、水分補給としてイオンサポートゼリーを導入したところ、水分摂取量が安定し、不調になる方が減少した。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっていないが、その日の入浴予定者は職員が決めることが多い。希望があれば入って頂くこともあるが、職員の人数や入居者全体の状況によっては希望にそえないこともある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みや身体状況に応じた寝具を準備したり、時間や場所にに捉われずご本人の状況に応じて休息や就寝の支援を行なっている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回の薬セットの際には薬の説明書を見ながら確認しているが、充分に理解しているとは言えない。服薬時には確実に服用できるよう気をつけて支援している。また服用後の変化にも気をつけて変化の観察・確認を行なっている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加をした頂いたり、個別の外出支援を行なう等しているが、入居者によって偏りがある。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族やご友人もお誘いしてのカラオケや外食、ドライヴなど希望を伺い計画を立てて支援しているが、当日急な希望には対応できないこともある。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力や希望に応じて、数名の方のみ財布を所持されており、使えるように支援している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は手紙のやり取りができる方はおられず、電話は希望があればかけられるよう支援している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、七夕の笹やクリスマスツリーなど年中行事の飾りつけをしたりし、四季を感じられる空間を提供している。音や空調などは気をつけてはいるが、個人で感じ方に差があり、混乱される場面もみられる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳やソファ、水槽があり思い思いに寛いで過ごせるようになっている。リビング以外にも、台所に椅子や廊下にベンチなどが設置されており、少人数や独りでの時間も過ごせるようになっている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団、家具などは入所時に馴染みの物、好みの物を持参して頂いている。テレビやラジオなども同様で好きな音楽や番組でご本人が楽しめるようになっている。写真や絵など好みの物が飾られている。家具の配置も個々に応じた状況になっている。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人ができることはなるべくして頂いているが、手伝ってしまうこともある。共有スペースは自由に利用できるよう工夫されているが、認知症状の進行にともない危険が予測されるもの（刃物、洗剤など）は片付けてある。		